

## 紹介

## ●野洲郡史

橋川 正編

本書は滋賀縣野洲郡の依囑により橋川氏が主任となつて編纂されたもので、緒説其の一、野洲郡の地理は文學士小牧實繁氏、同其の二、有史以前の野洲郡は島田貞彦氏の執筆に成り、第一編古代の野洲郡より第三編近世の野洲郡までは橋川氏、第四編最近世の野洲郡は編纂副手藤原光閣氏の執筆に係るものである。之に據ればよく同郡に於ける殖産の發達文化の推移を明かにすることが出來て、一般史界に對しても寄與する所が尠少でない。たゞ書中一寸氣附いた點を云へば、上卷第二編三八四頁に引用してある長安寺文書中の顯龍(?)の書狀を近江栗太郎志卷二、三五頁に引用してある同文書と比較して見るに少からざる相違がある、(栗田郡志にも誤りがあるやうだが)例へば栗太郎志に「於法儀之段者被仰顯候條」各其心懸專用候旨……被仰出候、將亦……御取次可申候旨使者被差上候……頼龍

花押……下間氏」であるのが本書には「於法儀之段者祖師顯候」各其心懸損用之者……被仰出候、時亦……御見次可申候等役分被差上候……顯龍」になつて居り、其他引用文中の誤字や脱字(例へば上卷三七九頁天文日記天文十六年二月廿八日條自頭人の下に十五字の脱字)なども多少あるやうであるが、それらはともかくとして、全體としてはよく各種の史料を驅使し、郡内各般の事物の發展を系統を立て、叙述してあるところに編者の苦心の程が窺はれる(菊版二冊九三三頁、圖版八七、滋賀縣野洲郡教育會發行、價六圓)

## ●佐賀藩藏屋敷拂米制度

商學士 佐古 慶三著

著者は近頃まで大阪高商に於て日本經濟史の研究指導に従事せられて居つた熱心なる經濟史の研究家で、特に我國古來の商都であつた大阪の經濟史研究及び其の資料の蒐集に興味を有し、曩に古版大阪地圖解說等の書を公にして學界に寄與されたが、今又新たに手に入れられた佐賀藩藏屋敷に關する記録を基として茲に本書を著はし藏米出入の始終を明にし、且つ拂米事務に關係した職員

職掌をも併記し又拂米に關聯せる藏中使制度に就ても論述し、特に其制度の骨子たる指米給米の事に最も力を注がれてあつて、研究の範圍は廣くないが、本制度に關する從來の通説の缺陷を補ひ學界に裨益するものは多い。猶ほ本書は末尾に佐賀藩藏屋敷舊記文書解説を附し其中の元文二年記録を鮮明なる四十九葉の玻璃版に附して示してある。(四六倍版、本文四六頁圖版四九、大阪史學會發行、非賣品)

### ● 南宗寺史

曾根 研三編

堺の南宗寺は三好長慶が大林和尚を開山して建立し後に澤庵和尚が之を中興した名刹で茶人紹鷗が大林に歸依するこゝが深かつた爲め其の門下の茶人で此寺に交渉を持つた人も多く、此寺と茶道とは離るべからざる關係が結ばれて居つた。且つ又當寺は所謂南宗論語に依つても有名で我が文化に少からざる關係を有する寺である。

然るに從來未だ詳密なる調査に成つた寺史が無かつたのを遺憾とし先々住及び先住の七周忌に當るにより現住龍山道嚴氏は其の記念として寺史の編纂を企て堺市史編纂

員たる曾根氏に囑して編纂出版されたものである。猶本書の一半を資料に割き主として當寺所藏の古文書記録金石文を年代順に掲げ、附録には任職歴代略譜、主要什物目録、當寺年表を載せてある。創建以來文化方面に關係が深かつただけに寺史として興趣が多く、一般文化特に茶道を論ぜんとする士の一讀に値ひする(和装一八九頁、堺市南宗寺發行、非賣品)(以上松野)

### ● 耶蘇會士日本通信

上卷

村上直次郎譯  
渡邊 世祐註

異國叢書の企ては世界に於ける日本を見んとする人々にこつての大きな悦びである。今度その第一回配本にして上記の一冊が我々の机上に送られた、本文四六一頁に收むる所は一五五九年より一五六九年に亘つて耶蘇會士ガスパル、ビレラ、コスモ、デ、トルレス。ルイス、ダルメイダ、ルイス、フロイス等が印度その他に送つた書翰卅一通でありその内容は京畿を中心させる彼等の活動並に見聞の報告である。勿論そこには彼等の偏見と誤解と